



新世紀のキャンパス
Campus of New Century

淑徳大学 淑徳共生苑

【撮影】 株わたなべスタジオ 渡辺洋司 (1)

② ウッドデッキと日本式庭園が調和した屋上庭園。天気の良い日には周囲の自然を満喫できる。



① 木の格子が美しい、環境にマッチした色調の外観。



淑徳大学は、昭和40年に福祉系の単科大学としてスタートした。以来、実学教育をモットーに、多くの福祉専門職を養成してきたが、このたび新たな実習の場として設立したのが、特別養護老人ホーム「淑徳共生苑」だ。

総合福祉学部のある千葉キャンパスにほど近い、住宅地を見晴らす高台に、淑徳共生苑は建っている。

全館バリアフリー対応、地上4階、地下1階の建物内には、1階に35名が利用できるデイサービスセンター、訪問介護ステーション(ホームヘルパーの派遣)、訪問看護ステーション(看護師の派遣)と居宅介護支援事業所がある。2階以上には個室ユニットケアとして100名が入所する。なかでも訪問看護は、他の施設ではなかなかないサービスで、4月から同校で看護学部が新設されたことに

伴い、訪問看護の実習も積極的に行うのが設立の目的でもある。

建物に近づくにつれ、まず目に飛び込んできるのが、淡い色調のグラデーションを思わせる木の格子だ。全体的には和風建築を思わせるデザインながら、非常にモダンなイメージを受けるのはこのためだ。設計に携わった施設長の林 房吉氏はこう語る。

「木の持つ温もりのイメージにこだわりました。格子に金属を使うのは簡単でしたが、あえて1本1本、木にこだわったのです」

テラスやガーデンにも全てウッドデッキを使用。内装も全館、木のナチュラルな雰囲気で統一されている。その理由は、施設でなく住まいという感じを持ってほしかったためだ。高齢者が大勢で暮らす施設は、とかく機能が優先され

がちだが、そこで暮らす人々にとって施設がどうあるべきかという点を考えた時に、今までの延長線のような暮らしをしてほしいとの思いがあった。

設備・デザイン面において魅力的な施設だが、福祉の現場と教育が一体となって運営されていくという施設の性格が問われていくのも確か。この点において、職員の質にはかなり意識した。同所の正規職員は全員が専門職で、実習の指導を受ける場面では、自分たちが目指す専門職の姿をしっかりと見て学べるようにしたかったという。大学の教育も含めて、地域や社会に貢献し、福祉施設はこんなに働きがいのある環境であることを実践したいという、理事長以下スタッフの熱い理念がここにはある。



④施設の敷地内には大学のグラウンドがあり、喫茶室「サイホーン」では学生と入居者の交流が可能。

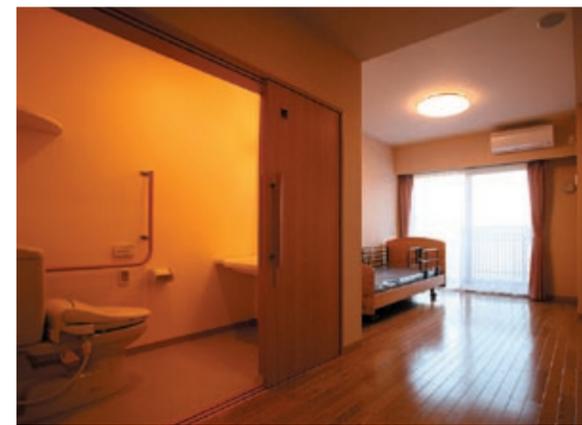


⑤廊下と適度な距離を保った談話室。入居者と家族、実習生が語り合う場所が至るところにある。

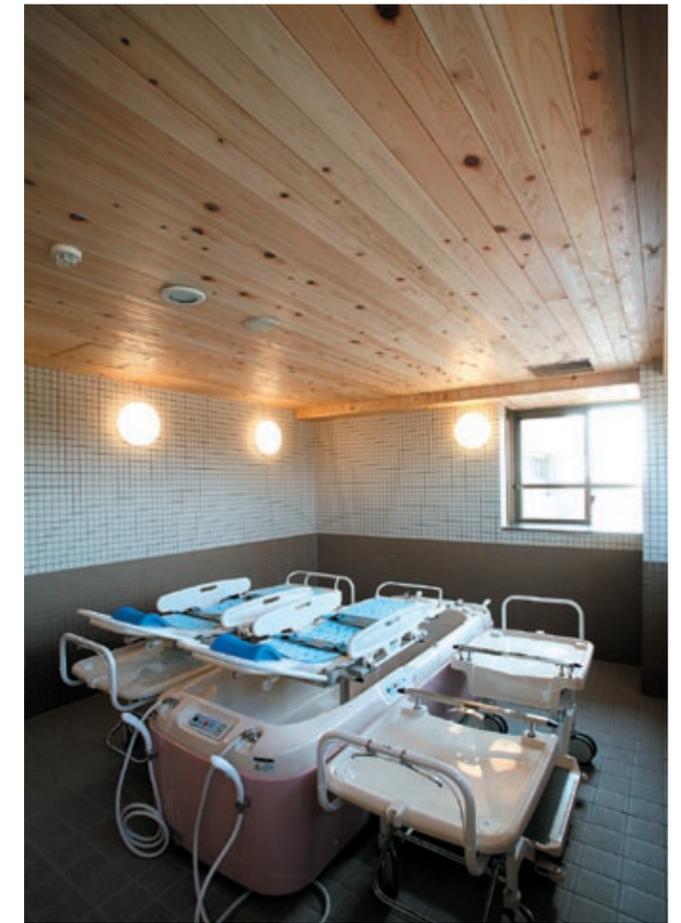
③多目的に使用できる八角堂の共有スペース「月影堂(つきかげどう)」。天井の照明オブジェが幻想的な雰囲気を醸す。



⑥「里山(さとやま)」「野原(ののはな)」など、大和言葉を使用した個室ユニット。キッチンでは簡単な食事を作ることができる。



⑦全室トイレ付きの個室は、車椅子の移動にもゆとりのスペースを確保した。



⑧一歩足を踏み入ると木の香りに包まれる、デイサービスセンターの特別浴室。